

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・大量に商品の予約があり、販売量、売上が増加している。
	変わらない	ゴルフ場（経営者）	単価の動き	・観光旅行客のプレーが激減している傾向にある。
	やや悪く なっている	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・これまでも、12月の動向では、月初に苦戦することはあったが、それでも賞与支給後やクリスマスシーズンが近づくとつれて消費は上向いていた。今回はその盛り上がりを感じられず、ギフト・自家需要共に縮小しており、店舗売上高の対前年度推移は3か月前よりも悪化している。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・今月は、単価、客単価共に前年と変わりはないが、来客数はここ数か月、前年と比較しても少ない。そのため、売上も減少している。
		通信会社（店長）	来客数の動き	・12月は例年なら需要期で来店数、販売量が伸びるはずだが今年が少ない。
		通信会社（サービス担当）	お客様の様子	・客の出足が鈍く、購入を先延ばしにしたり、価格にシビアになっている。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・3か月前の当施設の利用者数は、前年同月比105.5%だったが、今月は25日現在で前年同月比98.1%と前年同月を下回っている。この施設利用状況から、12月の沖縄県への入域観光客数は前年同月を維持するのは厳しい状況である。来園者は一般団体、家族連れ等が中心である。
	その他のサービス[レンタカー]（営業担当）	来客数の動き	・これまで好調に推移していた観光客のレンタカーの利用も、ここにきて減少している。	
	悪く なっている	スーパー（販売企画担当）	販売量の動き	・客単価が落ちてきており、クリスマス商戦も大変厳しい結果となっている。現在お歳暮ギフトは、特に高額品の動きが大変悪く、このままではお歳暮ギフトは2けた以上の大幅なマイナス実績となる。
家電量販店（総務担当）		お客様の様子	・年末によく動くはずの大型テレビを中心に、売上が苦戦している。売れないために市場価格の値下げが激しいが、かえって客が購入するタイミングを見切れない様子である。	
その他専門店[楽器]（経営者）		販売量の動き	・目に見えて売上が激減している。来客数、売上単価共に減少しており、商品の仕入れにも気を使い、在庫も減らしている。	
その他飲食[居酒屋]（経営者）		来客数の動き	・12月は本来稼げる月であるが、平日の来客数は例年よりも30%減少し、忘年会の予約も例年の半分である。前もっている手を打ったのに、クリスマスの盛り上がりも無く、20年間営業しているなかで、最悪の推移をしている。	
通信会社（店長）		販売量の動き	・新商品の発売が続いているが、販売台数が前年を大きく下回り、販売価格についても低価格帯に集中している。	
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	窯業土石業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前月から継続している大型工事により、販売実績がやや増加している。
	変わらない	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・変化が無く、横ばい状態が続いている。
		輸送業（代表者）	受注量や販売量の動き	・改正建築基準法の施行や、大手不動産業者の倒産、建設資材の高騰に影響され、民間工事は大変低迷しているが、一部地区を中心とした公共工事の土木関連が堅調で、生コンやアスファルト用砂及び碎石の受注がある。
	やや悪く なっている			
悪く なっている	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・コスト割れの案件も受注する状況にある。	

		会計事務所（所長）	受注価格や販売価格の動き	・特に飲食業では、客単価が減少している。来客数も例年に比べると減っている。
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
	変わらない	-	-	-
	やや悪くなっている	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・派遣依頼の減少がはっきり出てきている。また現場から派遣依頼があったものの、本社やトップの経営判断でストップされる例も出てきている。
	悪くなっている	求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・特に県外の製造系の求人数が激減している。見通しが全く立たない状況である。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・11月の新規求人数が1,836人、常用求人数が1,399人でそれぞれ前年同月比で31%、35.3%減少している。新規求人倍率は0.58倍、有効求人倍率は0.36倍でそれぞれ前年同月比0.18ポイント、0.12ポイント悪化している。なお、常用就職者は634人で前年同月比36.7%減少している。
	学校〔専門学校〕（就職担当）	それ以外	・企業側の雇用環境はここ数か月劇的に変化しており、日を追って求人数や採用予定枠が減少している。	
	学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・以前に比べて、新卒に対する採用数が明らかに減少している。また、これまでは人員補充的な面が多かったが、人物重視となり、採用基準も高くなっている印象を受ける。	